

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1691000077		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター山見		
所在地	富山県南砺市山見330-2		
自己評価作成日	平成28年2月8日	評価結果市町村受理日	平成28年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの行事や、曆に沿った行事食を実施し、四季を感じていただけるよう努めている。 ・地元や国産の食材を使用し、安心・安全な食事を提供している。 ・家庭菜園があり、入居者様と一緒に管理し、収穫を楽しみ皆で味わっている。 ・併設の小規模多機能サービスのご利用者とは合同で運動会やニチイまつりを開催し、交流を深めている。 ・入浴時は一人一人お湯の張替えを行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>本社の、社是・経営理念を基本に、開設時に皆で作った事業所の理念『お客様が笑顔で地域に根差したその方らしい生活を送れるよう支えていきます。』を玄関に掲示している。運営や職員研修には本社の支援が活かされ、管理者や職員は安心して業務に専念することができる。建物は3階建てで、2階、3階の各ユニットは、家具の配置や利用者手作りの壁面装飾作品等に各々特色や工夫があり、その作品を見ながら利用者同士の会話が広がるなど、温かい空間となっている。事業所の催し物は近隣の方にも周知し、納涼祭やボランティアの来訪をともに楽しみ、地域密着の事業所としての役割を果たしている。また、年間の祝日には、その日に見合う献立を地元の食材で提供するなど、食べることを大切にしたり取り組みは、利用者・家族に喜ばれている。入浴時には、個別に毎回湯の入れ替えを行い、利用者の満足度の向上と感染症のリスク軽減となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の社是を行動の規範とし、地域に根ざした園らしい生活を支えるサービスを実践している。	社は「誠意・誇り・誠実」と本社の経営理念をスタッフルームに掲げ、開設時に作った事業所の理念は玄関に掲示している。月に1度の職員ミーティングでは、社是と理念を唱和し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩のときは近所の方と挨拶したり、話したりする。定期見学会の開催。ホームでのイベントのお知らせを行い、交流を図っている。地区の納涼祭へ参加させてもらっている。	月1度の定期見学会の開催や、歌・踊り・手品・紙芝居などのボランティアの来訪、地区納涼祭への参加、獅子舞の訪問、事業所文化祭への招待など、地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期見学会を開催し、介護の相談を受け付けている。ニチイまつりでも展示を行い、啓蒙活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、待機者活動の状況について報告している。出席者の方より現状についての意見を頂いている。	隔月の会議には、民生委員、行政職員、家族の参加があり、併設小規模多機能施設との合同で開催。毎回、資料として事業所の「活動状況報告書」を配布し、話し合いに活かしている。	開催案内や議事録については、参加されない家族にも配布し伝達するなど、会議内容の共有を図る取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月定期営業にて実情やホームの取り組みを紹介している。運営推進会議に出席していただき、困難事例を相談する事もある。	地域包括職員とは、運営推進会議での情報交換をはじめ、毎月、事業所の空床状況などの情報提供をしながら信頼関係を築くなど、いつでも相談できる体制がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで身体拘束についての研修を行っている。基本行動制限は行わないが、やむを得ない理由があるときは手続きを踏み行うことを契約時説明し了解をもらっている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	毎月のミーティングで、行動制限等について話し合い、今年度は虐待防止の外部研修受講職員が主となって研修会を行った。またフロアの施錠について利用者の行動調査を実施するなど、拘束をしないケアの実践に向けた取り組みを行い、職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで研修の機会を持っている。ユニット毎にもカンファレンスの機会を持ち気づいたことを検討し、改善に向けて取り組む。職員間で何でも話し合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいないため協議、研修の機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を取り、説明し、納得を得た上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関の意見箱の設置・顧客満足度調査の実施で意見や要望を聞ける体制を取っている。家族からの直接的な要望は都度対応し、申し送りノート等で共有していく。	家族面会時には利用者の様子を伝え、そのつど意見や要望を聞いている。意見や要望は、申し送りノートや日報に記録し共有。また法人共通の顧客満足度アンケートを実施し要望の把握に努めている。	顧客満足度調査の結果を家族や職員にも開示し、内容を運営に反映していく取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ全員が委員会に所属し、意見を出し、運営に反映させている。業務ミーティング、ユニットミーティング、個々の面談を実施し、意見を聞く機会を設けている。	職員は、行事・食事・環境美化の委員会に所属し、月1度の会議で企画、運営の報告を行っている。また、管理者と年1度の面談を実施し、表出した意見はミーティングで共有し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の勤務状況を把握し、キャリアアップの機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立ててミーティング時研修を行っている。社内においても定期に開催される身体介護研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換する。入居者の紹介も受ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初はこまめに声をかけ話を聞き見守りに努めている。 一日の流れをその都度伝え、安心して過ごせるよう関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、ご本人の話を傾聴し不安なく過ごせるよう関わっている。 十分な面談時間を持ち互いに理解し合えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時にご本人家族の不安や要望をよく聞き、他サービス利用で生活を継続できるか考える。必要に応じて併設サービス紹介、包括支援センターへの相談を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、得意な事を見つけご本人と一緒に行うようにしている。 時節のこと、家事のこと、教わったり、伝えたり、共に考え、生活を楽しめるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時、又は電話で近況、ご本人の思いを知らせている。 可能な限りの面会をお願いしている。 招待状を出し、一緒に行事参加できる機会を持てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月一回以上は家族、友人の来訪がある。 馴染みの美容室、かかりつけの歯医者へ家族協力の下出かけている。 遠方からの電話を取り次ぎこれまでの関係維持に努めている。	友人、親戚、孫、曾孫などが面会に訪れ、居室やリビングでゆっくりしていく。また、地域にある閑乗寺公園、木彫りの里、図書館等々、個々の思い出に沿った外出の計画を立てるなど、なじみの場所へ出かける機会も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、日々の変化の把握に努め、スタッフ間情報を共有している。 気持ちよく食事できる席、利用者同士教え合える席の座席配置を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のフォローは行った事はない。必要時は相談、支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人の希望、意向の情報収集に努めている。日々の関わりの中で得た情報は申し送りノートで共有している。	日常のケアの中で利用者の思いを汲み取り、家族には面会時に気軽に話を聴いている。気づいたことは、心身の情報シート、暮らしの情報シート等に落とし込み、職員間で共有を図りケアプランに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族、担当ケアマネージャーより情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録の記入によりご本人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思い、家族の思いを確認しながら定期カンファレンスにて話し合い、介護計画を作成している。	毎月開催しているカンファレンスでは、利用者一人ひとりの心身の状況や課題、ケアのあり方について話し合い、結果内容は担当者会議録に記録し、介護計画の見直しや作成につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を元にスタッフ間での情報共有を行い、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内だけのサービスで対応し切れない部分は保険外サービスの提案を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院や理容院を利用する事で満足できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時かかりつけ医についての協議をし、かかり行い、受診については家族の協力を得ている。必要時文章や連携室を通じてご本人の状況を伝えている。緊急時の受診についても説明し、了解をもらっている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。基本は家族が事業所からの情報記載文書を携帯し受診に同行。場合によっては職員が付添い医師と情報交換するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師の配置がない。併設の小規模多機能サービスの看護師に相談し、必要時受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時早期に連絡を行い、情報収集・共有を行う。毎月1回以上は連携室に訪問し、情報交換し、関係作りに努めている。退院時は専門職からの情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時ターミナルはしていないことを家族に説明し、了解を得ている。介護度が上がった時、状態が悪化した時家族と話し合いを行い、他サービスの紹介・情報提供を行っている。	入居時に、見取りケアはしないことを説明し同意を得ている。重要事項説明書には、退去時についての文言が記載されているが、一人ひとりの状態に応じてそのつど家族と話し合い、今後の方針について納得のいく話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って研修し、スタッフへの周知を図っている。救急講習を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域の消防署の協力を得て自衛消防訓練を実施している。災害時の対応もミーティングにて研修している。食料や飲料水等の備蓄を行っている。	年2回の避難訓練の内1回は消防署立会いのもと実施。27年3月には火災以外の自然災害を想定した訓練を行った。また運営推進会議では事前、事後の報告を行い協力への理解に努めている。	日頃から近隣地域との協力関係をつくり、避難訓練への参加を依頼するなど、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧で尊厳を尊重した言葉遣いに努めている。	利用者への言葉遣いは『ゆっくりと丁寧に』を基本として日々努め、また一人ひとりの対応の仕方については、そのつど話し合いの中で各職員の気づきを共有して利用者の誇りを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促している。待つことを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに声かけ、体操や掃除等に関われるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方には毎朝髭剃りをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	豆の筋とり、もやしの根とり、とろろ芋の摩り下ろし、食器拭き、お盆拭きテーブル拭き等無理のない範囲で行っていただいている。	基本のメニューは本社の管理栄養士が立案しているが、地域密着の事業所らしい郷土食や、年間の祝日には、毎回趣向を凝らした特別メニューを提供するなど、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた支援を行っている。食形態、水分量。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状態に応じた口腔ケアを行っている。できる方には声かけ、できない方には磨きなおし、義歯洗浄を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけを行っている。歩行不安定や動作困難な方には終始付き添い支援を行っている。	個々の排泄パターンに合わせプライバシーに配慮した声掛けでさりげない誘導を行い、できることを負担なくできるように見守り、できないところは介助するなどして、全員がトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回以上足踏みや全身の体操を行っている。便秘がちの方には、牛乳や、水分調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時々体調や想いを重視し、無理強いはしない。常にその方の気持ち、入浴したいという思いを中心に考え支援している。	月～土まで毎日入浴できる体制があり、職員は個々の利用者とゆっくりとコミュニケーションを取ることができる時間と捉えているなど、入浴を楽しめる支援をしている。また、湯船の湯は、利用者ごとに入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	言動や表情から察することができる様努力し、休息を勧める。夜間安眠できるよう日中楽しく集中できることを勧め生活にメリハリができる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気、服薬状況をカンファレンス等の機会理解を深めている。日々の介助においては、スタッフ二人でダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬりえや貼り絵、編み物等好みの作業を行い、意欲を持って生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて行っている。日常的には、ホーム周辺の散歩、他の階へ出かける。希望者を募り地域の喫茶店でお茶を楽しむ支援を行った。	少人数で地域の図書館に出かけ満ち足りた時間を楽しみ、天気の良い日は事業所周辺の散歩をして近所の方と挨拶を交わしている。また、季節毎に花見、菖蒲などの見物に出かけ、家族との定期受診、買物、美容院などの機会もあるなど、多様な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や財布を所持していないと安心できない方には所持していただいている。スタッフは中身を把握し、トラブルにならないよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には速やかに対応している。状況に応じて見守り、又は取次ぎを支援している。かかってきた場合も取り次ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の掲示物、利用者の作品を展示し、温かみのある空間となるよう努めている。ご利用者の希望に合わせて室温調整や調光をこまめに行っている。	各ユニットとも、利用者と職員共同の季節感ある作品が、リビングに掲示されている。午後、利用者が洗濯後のタオルをリビングで干していた。利用者が役割を果たす喜びと室内の加湿効果が得られるなど、共用空間にはさりげない配慮が満ちている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の様子に気を配り、座席配置する。臨機応変に希望の場所でテレビを見たり、景色を楽しめるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使用していた家具や写真を置きリラックスして過ごせている。	居室の入り口には、手作りの表札を掲げている。一人ひとりの状態や好みに合わせ、フローリングに畳を敷くなど安心できる居室づくりに努め、なじみの家具を配置したり家族の写真を飾るなど、利用者が安らげる場所となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室の場所が分かり自身の意思で行動できるよう、ご本人が分かるネームプレート掲げている。トイレの場所が分かるよう目印がある。引き戸は挟み込み防止になっている。		

(別紙4(2))

事業所名 ニチイケアセンター山見

作成日: 平成 28 年 3 月22 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時に昼夜を問わず近隣住民に協力を仰げる体制が築けていない。	災害時に近隣住民の協力を得られる体制を築くことができる。	近隣地域の方へ年2回の避難訓練への参加を依頼していく。	12ヶ月
2	3	全ての利用者家族に運営推進会議の開催、会議内容について周知できていない。	全ての利用者家族が運営推進会議の開催や会議内容を知り、ホームの運営状況を理解することができる。	運営推進会議に出席されない家族にも議事録を配布する。	3ヶ月
3	6	運営に関する利用者、家族の意見を求めるために顧客満足度アンケートを実施しているが、アンケート結果を運営に反映できていない。	利用者、家族の意見をホームの運営に反映させることができる。	顧客満足度アンケートの結果を家族や職員に開示する。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。